

第3回 SPARC Japanセミナー 2017

オープンサイエンスを超えて Beyond Open Science

2018年2月21日（水） 10：30-17：00

国立情報学研究所 12階会議室

※同時通訳付

登壇者

- Paul A. David
(Professor Emeritus, Stanford University)
- 村山 泰啓
(情報通信研究機構/ICSU-World Data System)
- Heather Joseph
(Executive Director, SPARC North America)
- 倉田 敬子
(慶應義塾大学文学部 教授)
- 市古 みどり
(慶應義塾大学 三田メディアセンター 事務長)
- 深貝 保則
(横浜国立大学大学院 国際社会科学研究院 教授)

2002年のブタベスト・オープンアクセス・イニシアチブと2013年のG8オープンデータ憲章は、科学アカデミーからのボトムアップな自主活動とトップダウンの政策提言という互いに交錯しつつも共通の方向を目指し、「オープンサイエンス」の実現を加速する転回点となった。

しかし、この方向が社会全般にわたるデジタル化の動向と軌を一にするものであるとしても、人類がこれまで営んできた科学という活動の本来のあり方をついに実現しようというのであるのか、それとも、デジタル化といういわば道具の変化が科学活動の本質を変えようとしているものであるかの見極めはついていない。実際、デジタル化とともに学術コミュニケーションの形態は大きく変化し、研究室、教室、「図書館」における知識の生産と伝達の様式は予測不可能なほどに変貌しつつある。

この変化の中で、我々が向かうべき具体的活動の方向性を明らかにするためには、このセミナーの一日だけでも立ち止まり科学と学術の本来の姿を議論することによって、学術知識の生産に従事する関係者にとっての本筋を見出し、参加者が自らの状況に照らして次に進む一助となることを期待している。

主催：SPARC Japan (国立情報学研究所)

SPARC*Japan

NII 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所
National Institute of Informatics

プログラムおよび講演者 (予定)

10 : 30- 10 : 35	開会挨拶	林 和弘 (科学技術・学術政策研究所)
10 : 35- 10 : 40	概要説明	蔵川 圭 (国立情報学研究所)
10 : 40- 11 : 25	オープンサイエンスを真に理解する	Paul A. David (Professor Emeritus, Stanford University)
11 : 25-11 : 30 休憩		
11 : 30- 12 : 00	ICSU-WDSとオープンサイエンス(仮)	村山 泰啓 (情報通信研究機構/ICSU-WDS)
12 : 00- 12 : 20	質疑応答・ショートディスカッション	
12 : 20-13 : 20 休憩		
13 : 20- 14 : 05	オープンリサーチを可能にするには	Heather Joseph (Executive Director, SPARC North America)
14 : 05-14 : 10 休憩		
14 : 10- 14 : 35	デジタル時代の研究プロセスと大学, 大学図書館における支援のあり方	倉田 敬子 (慶應義塾大学文学部 教授)
14 : 35- 15 : 00	デジタル世代が主体的な研究者として学問と科学に関与できる環境づくりを行う大学図書館 (仮)	市古 みどり (慶應義塾大学 三田メディアセンター 事務長)
15 : 00- 15 : 20	質疑応答・ショートディスカッション	
15 : 20-15 : 35 休憩		
15 : 35- 16 : 50	パネルディスカッション モデレーター : 深貝 保則 (横浜国立大学大学院 国際社会科学研究院 教授) 「討論への問題提起: オープンサイエンスの知識論を考える」 パネリスト : 上記登壇者	
16 : 50- 17 : 00	閉会挨拶	武田 英明 (国立情報学研究所)

※ 講演タイトルは変更の可能性があります。

参加費 : 無料

参加申込 : 下記URLよりお申込み下さい

<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/>

申込期限 : 2018年2月19日 (月)

お問合せ先 : 国立情報学研究所 SPARC担当

E-mail : co_sparc_all@nii.ac.jp

FAX : 03-4212-2375

